

## 自転車競技ロードレースに向けた取組について（多摩市）

### ①おすすめスポット

#### ◆ 南多摩尾根幹線道路

南多摩尾根幹線道路は、世界の「ONEKAN」としてスポーツサイクリストのメッカとなりつつあり、週末はもちろん平日も含めて多くのサイクリストが訪れる。多摩市内の道は多摩丘陵を横切るためほどよく高低差があり、変化に富んだ景色を見ることができる。

通り沿いには、多摩市立陸上競技場のある多摩東公園や諏訪南公園、学校跡地を利用した東京多摩フットボールセンター南豊ヶ丘フィールドなど、整備された広大なフィールドが豊富にあり、大会当日にパブリックビューイングを実施するなど間近での大規模イベントが開催できる。

また、南多摩尾根幹線道路に並走して、古代より西国と東国を結ぶ交通の要衝として活用されてきた「たまよこやまの道(新歩く道紀行 100 選『歴史の道』)」があり、古代のレガシーとオリンピックレガシーが融合する地域をアピールすることが可能である。

#### ◆ 上之根大通り

南多摩尾根幹線道路から北上する市道。成熟した緑豊かな多摩ニュータウンの街並みを感じることが出来る。通り沿いにはカワセミなどの野鳥が住む池のある豊ヶ丘南公園など公園が点在し、大会の開催される夏場には美しい緑が広がる。

#### ◆ 遊歩道

多摩市内における多摩ニュータウンの街に網の目のように張り巡らされた遊歩道は全長約 41 kmにおよび、車道を横断することなく、市内を横断することが可能。大会時には、遊歩道から車道を見下ろすことができる多くのスポットからたくさんの観客が応援することができる環境を用意することができる。

#### ◆ 公園

多摩市は市民一人当たりの市立公園緑地面積が 13.6 平方メートルで東京都内 26 市中第一位。公園緑地数は大小 207 カ所を誇り、多くの市民の憩いの場となっている。これらの公園は大会時に限らず様々なイベントを行えるポテンシャルを秘めている。

### ②大会時イベント

#### ◆ 大会マスコットとの触れ合いで子どもたちの期待を高める

市内の幼稚園や保育園の園児を対象に、スポーツイベントを開催し、大会マスコットに登場してもらい、触れ合うことでオリンピックへの期待感を高める。スポーツイ

イベントには、サイクルスポーツに興味を持てるよう、ストライダーの大会などを実施。2020 大会関連グッズ等の販売も行い気運醸成を図る。

#### ◆ 市内の子どもたちに夢を残すイベント

市内の小中学校全校児童生徒に、大会参加国の応援のぼり旗を作ってもらい、イベント時や、開催日にコースそばに掲出、応援。児童・生徒が 2020 大会に参画できる機会を提供することで、心のレガシーを育む。

#### ◆ 若者に夢を残すイベントの開催

市内にある多くの大学・高等学校それぞれの学生・生徒に、気運醸成のイベントを自主企画してもらおう。学生が 2020 大会に参画できる機会を提供することで、「心のレガシー」を育む。

#### ◆ 競技開催日は A L L 市民で応援

- ・ 市民(小学生から大人まで)のボランティア参画。
- ・ 武道館・陸上競技場で来街者のおもてなしのための物販やサイクルメーカーの競技用自転車の展示、体験会などのイベントも実施。
- ・ 市内の公共施設(スポーツ施設、公民館等)でパブリックビューイングの実施。

### ③ レガシー作り

#### ◆ 市内の充実した社会インフラを活用した 2020 大会終了後のイベント開催

- ・ 自転車ロードレースの市民大会が開催できるよう目指していく。
- ・ 広い車道、歩車分離がなされた遊歩道等を活用した記念ロードレース大会を開催する。
- ・ 子ども向けロードレース大会を開催する。

#### ◆ 都内有数の数を誇る公園内にて競技自転車の体験イベント開催

一般の人があまり触れることのない、競技用自転車を体験する機会を市内の各公園で行うことで、子どもを中心に競技を体験してもらう機会を設け底辺拡大を図る。

#### ◆ 南多摩尾根幹線道路の整備に合わせたロードサイド施設の充実

ツーリング愛好家の楽しめるショップや関連施設等を誘致し、施設内に競技自転車用のハンガーや休憩所を設置する。

#### ◆ 心のレガシーの醸成

多摩市内の南多摩尾根幹線道路沿いに点在する、小学校から大学まで約 20 校の学校の児童生徒・学生に間近での応援や手伝い等を通して、大会の感動と高揚感を実感してもらい、「心のレガシー」として焼き付け、将来に渡る競技文化を根付かせる。